



つながれ KENPOKU

令和8年8月27日 発行

今回は、福島市学習センター訪問の第1弾として吉井田学習センターともちずり学習センターの取組についてお伝えします。

福島市学習センター訪問

7月3日 吉井田学習センター 7月10日 もちずり学習センター

【吉井田学習センター】 【地域とつながり、若者の力で未来をひらく】



明確な運営方針のもと、地域との協働や持続可能な地域づくりに積極的に取り組んでいます。新企画「よしいだ young プランナーズ」では、大学生に加え高校生も参加して縁日を開催するなど、若者が企画から運営まで主体的に参画。また、少年教育事業「ヨッシーキッズ」の卒業生がボランティアとして後輩のキャンプ活動等を支えるなど、若者が活躍する仕組みが定着しています。さらに、NPO と連携した子ども食堂や体験活動をはじめ、利用団体が学んだ成果を生かす高齢者施設での演奏ボランティアやシニア向け ICT 講座など、多世代が支え合う温かな学びの輪が広がっています。夏休み防災キャンプ等の減災事業や、対話による丁寧なニーズ把握、バリアフリー環境の整備など、誰もが安心して学べる環境づくりに努め、地域のニーズに寄り添う学習拠点となっています。

【もちずり学習センター】 【「出会い・ふれ合い・学びあい」を大切に】



「一人一人の居場所」や「10年後、20年後の利用者の育成」を掲げ、利用者目線に立った温かい運営を行っています。農園作業や年中行事を通じた「いきいきふれあい広場」では、各種団体やボランティアの協力のもと、温かな世代間交流が生まれています。また、「ジュニアリーダー教室」をはじめとする青少年教育に力を入れ、子どもたちの「やりたい」気持ちやボランティア精神を尊重しながら自己肯定感を育てています。さらに、SNS と紙媒体を巧みに組み合わせた効果的な広報により、住民ニーズに合致した質の高い講座をタイムリーに提供しています。豊富な蔵書やフリースペースも備わり、幅広い世代に親しまれる学習センターです。

今年度は、5つの福島市学習センターを訪問し、地域の特性を生かした魅力ある取組や、職員・住民の皆様が情熱をもって運営に携わる姿をお聞かせいただきました。各センターで実践されている工夫や連携のあり方が、皆様の公民館運営や事業企画の一助となれば幸いです。